



翼



学問に王道なし～「メタ認知」の大切さ～

校長 辻 康一

長かった夏休みが終わり、学校には元気な声が戻ってきました。

1学期の通知表や面談を通して、夏休みを含め、2学期こそ勉強に力を入れようと決意した人たちもいるはずです。特に3年生は、多くの人たちがそのように思っているかもしれません。しかし、「自分では頑張っているのに、なかなか成績が上がらないな」と感じている人もいるでしょう。そんな人たちに、新たな工夫として「メタ認知」ということをお話します。メタ認知の「メタ」とは、より次元が高いという意味があり、自分の行動、考え方、性格などを別の立場から見て認識するということです。つまり、自分を客観的に見て、自分が何を知っていて、どれだけ理解しているか、そして何を知らないか、何ができないかを自分自身で理解することです。

よく先生が「わからないことがあったら質問してください」と言っても、誰も質問はしません。もちろん、人前で質問することが恥ずかしいということもあるかもしれませんが、中には「何を質問していいかわからない」「自分のわからないところがわからない」という人もいるのではないのでしょうか。

勉強とは何だろう、と考えるとそれは「わからないことがわかるようになる」ことです。ということは、自分にとって「何がわかっているのか」「何がわからないのか」をきちんとつかんでいないと、勉強になりません。わからないことを無視して、わかるところだけを繰り返し練習しても、あまり成績アップにはつながりません。また、ワークやドリル、問題練習に取り組んで、間違ったりわからなかったりした部分を赤で書き込むだけでは勉強になりません。ワークやドリル、問題練習は「自分は何がわからないのか」を発見するための手段です。ですから、ワークや練習問題に何時間取り組んでも、それはまだ勉強したことにはならないのです。生徒たちの中には、この「勉強の前の段階」で、「ああ、よく勉強した」と思っている人もいるかもしれません。勉強とはワークや練習問題に取り組んだ時間ではなく、「自分が間違った箇所が、もう間違わなくなる」「わからなかったところが、わかるようになる」これが勉強なのです。

したがって、最初にお話しした「自分の力は、今、どうなのか」を客観的に把握すること、すなわち「メタ認知」が大切になってくるわけです。これは、勉強だけではなく、スポーツや芸術、その他生活全般についても同じことが言えます。得意なことは、さらに伸びるように何度も繰り返したり、もっと負荷をかけたり、逆に苦手な部分は、目をそらすのではなく、少しずつでも「できるようにする」と。苦手なことができるようになるには時間がかかります。それには近道はありません。コツも上手いやり方ありません。正面から向き合って、時間をかけて力を付けていくしかないので。まさしく、『学問に王道なし』です。どうか、生徒のみんなが自分を知り、自分を磨いて、成長していくことを願います。

■スタートアップ面談

2学期始めは、スタートアップ期間を設定し、二者面談を実施しました。全校生徒一人一人の気持ちを聞き取り、不安やストレスに寄り添いながら2学期をスタートさせるためのものです。保護者の方も何か不安なこと、ご心配なことがありましたら遠慮なくご連絡ください。



■9月土曜授業

9月12日に土曜授業を実施しました。今年も1年生、2年生、I J学級を対象におやじ倶楽部による職業講話を行いました。仕事の苦労ややりがいはもちろんですが、人生における仕事の意味、喜びや幸せの気持ちなどを語っていただく中で、中学生の心に響く未来への応援のメッセージをたくさん盛り込んでくださいました。



午後には体育館を会場にして地域の方向けの防災講演会が行われました。防災士の大間圭介さんによる「命と防災」についての講演、東京消防庁音楽隊による演奏、起震車による体験などのプログラムがありました。

